

2022年度 三田祭論文案内

経済学部ゼミナール委員会

【目次】

I. はじめに	p.3
II. 三田祭論文とは?	p.4
III. 三田キャンパスマップ	p.5
IV. 論文発表タイムスケジュール	p.6
V. 経済学部三田祭ブース設置一覧	p.7
VI. 各研究会案内	p.12

I. はじめに

経済学部ゼミナール委員会 三田祭担当

第 64 回三田祭「経済学部 室内ゼミナール企画」にご来場頂き、ありがとうございます。三田祭論文とは、各研究会が三田祭に向け作成する論文のことで、本年度も 40 を超える研究会が参加しております。研究対象は様々で、論文の題材も実に多様です。各研究会によるブース展示・合同プレゼン会を通して皆様に三田祭論文をお届けいたします。是非たくさんの研究会のブースを巡って頂き、私たちの研究発表をご覧ください。経済学の面白さや、その可能性を少しでも感じていただけたら幸いです。

また、研究会選びに悩んでいる 2 年生の皆さんにとっても、多くの研究会を比較することができる良いチャンスです。ぜひ研究会の雰囲気や学習内容をじっくり比べることができるこの貴重な機会を有意義に活用し、興味のある分野の発見に役立ててください。

最後に、この冊子には各研究会の発表内容やプレゼンのタイムスケジュールなどを記してありますので、ブースを回る際のガイドブックとしてご活用ください。

この冊子以外での三田祭論文に関する情報発信について

経済学部ゼミナール委員会では以下の媒体で研究会・三田祭論文の内容紹介を行っています。

- 経済学部ゼミナール委員会 HP

<https://keizemi-keio.info/>

- 経済学部ゼミナール委員会 Instagram

http://instagram.com/keizemi_offical

- 2022 年度三田祭論文に関するご質問は以下のメールアドレスまでお願いいたします。

keioeconomicscommittee@gmail.com

Ⅱ. 三田祭論文とは？

三田祭論文とは、慶應義塾大学の学園祭である三田祭のために執筆した論文のことを指し、各研究会の日頃のゼミ活動の結晶です。どの研究会もテーマ、内容ともに個性に富んだものを作成しています。

経済学部では以下の二つのかたちでご来場の皆様に三田祭論文をお届けします。

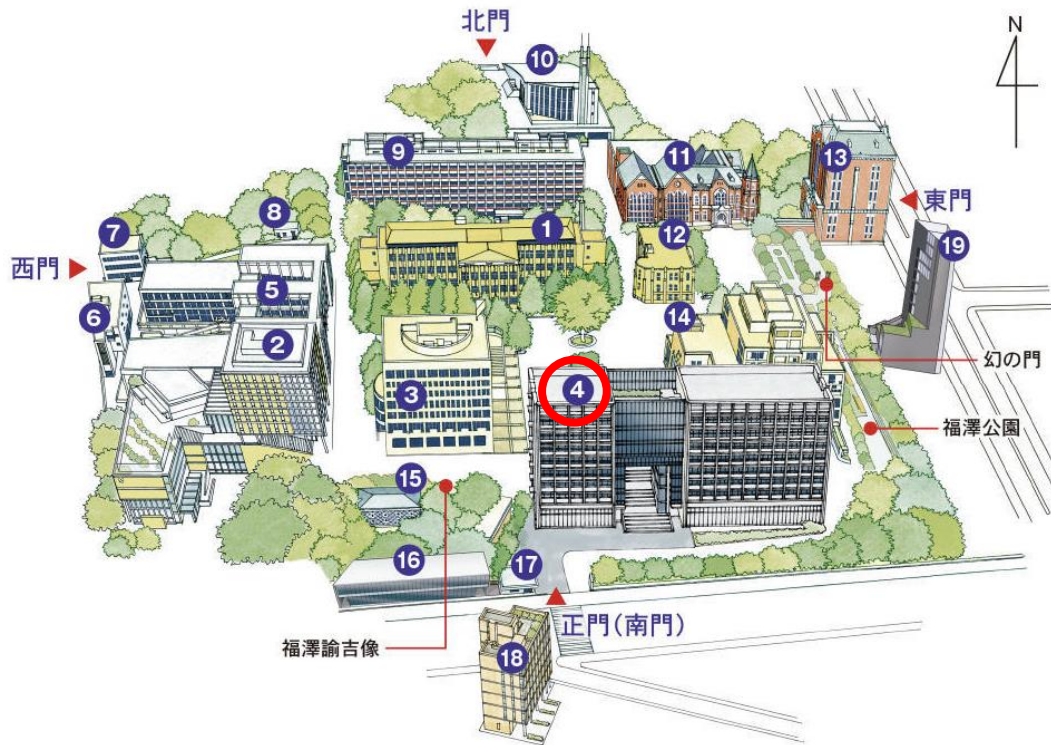
1. ブース展示

研究会ごとにブースを設け、ポスターの掲示や実際の論文を用いて直接説明を行います。

2. 合同プレゼン発表会

例年経済学部のみが行っている企画です。三田祭期間の4日間を時間で区切り、来場者に対しプレゼン発表をする時間を設けています。

Ⅲ. 三田キャンパスマップ



各研究会のブース・プレゼン発表会ともに④の南校舎にて行われます。

各研究会ブース：南校舎の各教室

論文プレゼン発表会（経済学部ゼミナール委員会本部）：南校舎3階 435教室

IV. 論文発表タイムスケジュール

プレゼンを行う教室は南校舎3階の435教室です。

開始	終了	11/20 (日)
10:30	10:55	土居丈朗研究会
11:05	11:30	片山翔太研究会
11:40	12:05	河端瑞貴研究会
12:15	12:40	赤林英夫研究会
12:50	13:15	石井太研究会
13:25	13:50	加島潤研究会
14:00	14:25	小西祥文研究会
14:35	15:00	中嶋亮研究会
15:10	15:35	大垣昌夫研究会

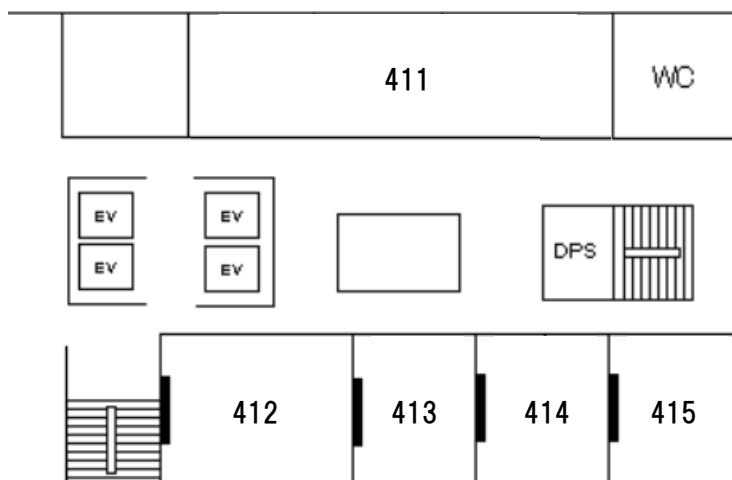
開始	終了	11/21 (月)
10:30	10:55	直井道生研究会
11:05	11:30	神田さやこ研究会
11:40	12:05	大平哲研究会
12:15	12:40	三嶋恒平研究会
12:50	13:15	大沼あゆみ研究会
13:25	13:50	橋口勝利研究会
14:00	14:25	山田浩之研究会
14:35	15:00	長倉大輔研究会
15:10	15:35	河井啓希研究会

開始	終了	11/22 (火)
10:30	10:55	中西聡研究会
11:05	11:30	櫻川昌也研究会
11:40	12:05	小林慶一郎研究会
12:15	12:40	石橋孝次研究会
12:50	13:15	木村福成研究会
13:25	13:50	坂井豊貴研究会
14:00	14:25	玉田康成研究会
14:35	15:00	千賀達朗研究会
15:10	15:35	

開始	終了	11/23 (水)
10:30	10:55	星野崇宏研究会
11:05	11:30	佐藤祐己研究会
11:40	12:05	藤原一平研究会
12:15	12:40	一上響研究会
12:50	13:15	津曲正俊研究会
13:25	13:50	中妻照雄研究会
14:00	14:25	太田聰一研究会
14:35	15:00	廣瀬康生研究会
15:10	15:35	秋山裕研究会

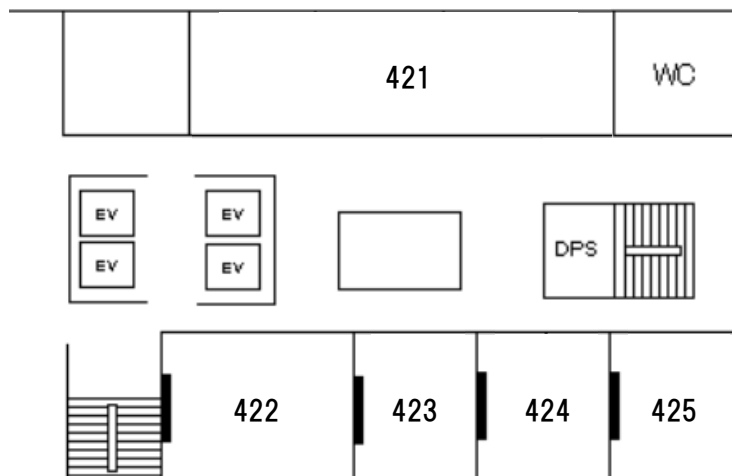
V. 経済学部三田祭ブース設置一覧

【1F】



1階	
411	直井道生研究会
	木村福成研究会
	櫻川昌哉研究会
	白井義昌研究会
	山田浩之研究会
	中西聡研究会
	星野崇宏研究会
	大垣昌夫研究会
	津曲正俊研究会

【2F】



2階			
421	和田龍磨研究会	422	石橋孝次研究会
	河端瑞貴研究会		一上響研究会
	松沢裕作研究会		石井太研究会
	笹原彰研究会		大平哲研究会
	神田さやこ研究会		
	橋口勝利研究会		
	田中幹大研究会		
	前多康男研究会		
	中嶋亮研究会		
	千賀達朗研究会		

【3F】



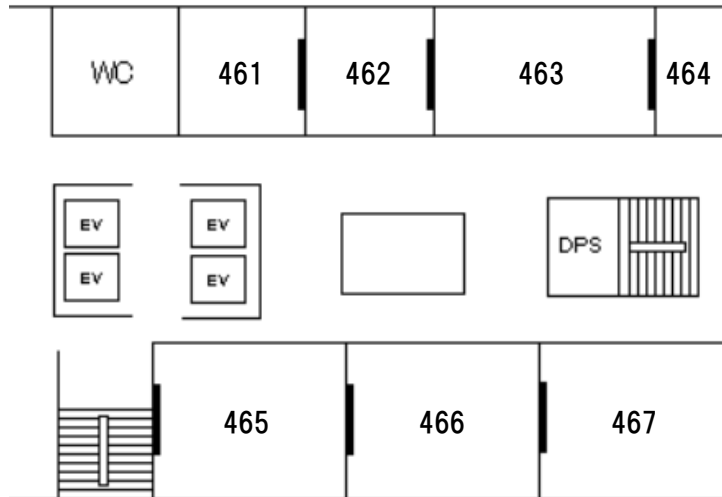
3階			
432	秋山裕研究会	435	経済学部ゼミナール委員会
	植田浩史研究会		
433	加島潤研究会	436	経済学部ゼミナール委員会
	土居丈朗研究会		
	大沼あゆみ研究会		
	山田篤裕研究会		

【4F】



4階	
441	小林慶一郎研究会
	藤原一平研究会
442	坂井豊貴研究会
	玉田康成研究会
443	太田淳研究会
	赤林英夫研究会
	長倉大輔研究会
	中妻照雄研究会

【6F】



6階	
461	廣瀬康生研究会
	三嶋恒平研究会

VI. 各研究会案内

赤林英夫研究会

・ブース設置場所

南校舎4階443教室

・パート名とテーマの概要

○労働班

労働班は「年収が高い人ほどボランティア活動に従事する」という仮説をたて、WVSのデータを用い、日本とアメリカのボランティア活動の現状を研究した。年収を被説明変数、ボランティア活動の頻度を説明変数とし、他にも年収に影響を与えそうな要素（教育水準など）を説明変数に加え、回帰分析を行った。

○家族班

家族班は「昼夜間人口比率はその地域の子育てのしやすさを表しており、合計特殊出生率に影響を及ぼす」と仮定した。昼夜間人口比率を説明変数、合計特殊出生率を被説明変数とし、2000年から2015年までのパネルデータ分析を行った。

・テーマの動機と注目点

○労働班

私たちは日本のボランティア活動の従事が海外と比べ、若い世代がボランティア活動に従事している時間が少ないと感じた。そこで日本と海外のボランティアの現状を比較し、日本でのボランティア活動を促す施策への提言に繋がるのではないかと考えた。

注目点としてはやはり日本とアメリカのボランティアの差異が今回のデータ分析で明らかとなったところである。日本のデータでは仮定通りの結果が得られなかったのに対し、アメリカでは年収とボランティア頻度に正の相関があった。興味深かったのは、宗教を変数として加えると上記の相関が弱まった点だ。これは、宗教を理由として、年収に関わらずボランティア活動が行われている可能性が高いことを示す。また同時に、アメリカでは学歴が高いほどボランティア活動を行う頻度が高いことがわかった。この背景としては、アメリカでは専門知識を必要とするボランティア活動も多く、さらに学生時代からカリキュラムの一環としてボランティア活動が取り入れられていることも影響していると考えられる。

○家族班

私たちは、日本の最も解決の急がれる社会問題である少子化を問題意識とした。事実、2021年の合計特殊出生率は1.30であり、少子化が加速していることが伺える。しかし、合計特殊出生率には、都道府県によるばらつきが存在する。この差が何によるものか考察を挙げることで、日本の少子化阻止の手がかりになるのではないかと考えた。

注目点は、昼夜間人口比率と合計特殊出生率に相関関係が存在することが明らかになったことである。具体的には、が1.0%減少すると、が0.022%減少するという結果が有意水準0.01のもとで得ることができた。このことの原因として、ベッドタウンなどのような、その都道府県の人々の生活における役割の影響が一因となっていると考えた。

また、今回の分析のサンプル数は47だけであり、適切に回帰分析を行うためには、不足しているという問題に直面した。この問題点を乗り越えるため、都道府県別データを継続して使用し、新たな年数別データを追加することで、パネルデータを作成した結果、今まで得られなかった相関関係が見られるようになった。

秋山裕研究会

・ブース設置場所

南校舎3階432教室

・パート名とテーマの概要

戦争と経済発展

現在、ロシアによるウクライナ侵攻によって世界経済に様々な影響が生じています。本研究会では、戦争という行為が経済に及ぼす影響のメカニズムを、軍事費の拡大・食料供給の制約・資源供給の制約・貿易活動の制約・投資活動の制約の5つの切り口から分析し、ウクライナ侵攻が世界経済にもたらす影響を定量的に予測し、それに対する経済政策を検討するとともに、戦争の発生・戦争の継続が経済発展に対してもたらす様々な影響を明らかにします。

・テーマの動機と注目点

～動機～

現在、ロシアのウクライナ侵攻は、世界において大きな問題となっています。世界的に軍事的緊張を高めるだけでなく、食料や資源価格の高騰による物価上昇などの影響も世界的な規模で広がっています。発展途上国から先進国まで、あらゆる発展段階の国々が影響を受けており、それらの影響への対応にあたって、各国は困難に直面しています。これまで、世界の様々な地域で戦争・紛争が発生してきたものの、その影響の大きさは必ずしも明確なものになってきたとはいえません。そこで本研究会では、戦争が世界の国々の経済発展にどのような影響を与えるものであるかを明らかにすべく「戦争と経済発展」をテーマに設定しました。

～注目点～

本論文の注目点として、以下の3点が挙げられます。

①計量経済学を用いて、戦争が世界経済へ与える構造の解明

概要で示した軍事費・食料・資源・貿易・投資の5つの観点を柱として、現在の国際経済における主要な関係式を計量経済学的手法を用いて推定し、戦争が世界経済の様々な分野にもたらす影響のメカニズムを解明しています。

②各国のマクロ経済への影響の分析

ウクライナ侵攻が国際経済を通じて引き起こした世界各国の経済における物価上昇などの影響とそれに対する政策について、マクロ経済学の基本モデルを活用して分析しています。

③世界の経済発展に対してウクライナ侵攻がもたらすコストの予測

①と②で明らかにしたメカニズムと、現在、入手可能なデータを用いて、ウクライナ侵攻が世界の経済発展にもたらすコストを予測します。それによって、戦争のない世界がどれほど経済発展に貢献することになるのかについて、数値で明らかにしています。

本研究会の教室でのブース展示における特徴として、以下の3点が挙げられます。

①本研究会のブースでは、ご来場の皆様に論文の内容を視覚的にもわかりやすくお伝えするため、論文の構造と内容をわかりやすくまとめたA1サイズのパネルを多数掲示します、

②論文の内容をパネルにしたものをご来場の皆様に見ていただくだけでなく、ゼミ生が、ご来場の皆様に、1つ1つのパネルについて詳しく説明します。

③本研究会が参加した学外コンテスト（為替レート予測コンテスト・株の長期運用コンテスト）において、最近1年間に表彰された論文の内容もパネル展示します。

是非、秋山研究会のブースにお越しください。ゼミ生一同、お待ちしております。

石井太研究会

・ブース設置場所

南校舎2階422教室

・パート名とテーマの概要

パート名「我が国における完全失業率が自殺に与える影響について」

テーマの概要：我が国において完全失業率と自殺率に有意な相関関係があるという仮説をたて、パネルデータ分析を通じて仮説を検証した

・テーマの動機と注目点

・テーマの動機：コロナ渦における女性の自殺率の急上昇が大きく取り上げられており、「自殺」という社会問題の深刻さが改めて浮き彫りになった。そこで私たち石井ゼミでは、自殺率を決定づける要因の一つであると考えられる完全失業率に着目し、「完全失業率」と「自殺率」の相関を通じて、「自殺」という社会問題に対しアプローチしたいと考えた。

・注目点：最新版の年齢調整自殺率を用いて、パネルデータ分析を行っている点。

石橋孝次研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 2 教室

・パート名とテーマの概要

石橋孝次研究会は「競争政策パート」「経営戦略パート」「産業組織パート」に分かれて三田祭論文を執筆しました。各パートのテーマは次のようになっています。

競争政策パートのテーマは「政府の掲げるエネルギーミックスを 2030 年までに達成することはできるのか?」です。太陽光発電の導入にかかる費用をもとに今後の導入量を予想し、現在の制度の下でエネルギーミックスが達成されるのかどうかを調べます。現在のままでは達成が難しければ、どのような制度が必要かを論じます。

経営戦略パートのテーマは「健康意識の高まりやプチ贅沢を求める人が増える中で、消費者のアイスクリームの購買行動はどう影響を受けているのか?」です。コロナ禍で健康意識が高まったことと、近年プチ贅沢としてスイーツを購入する人が多いことから価格を意識した従来のアイスクリームの需要構造が変化したのではないかと予想し、現在の需要構造を分析します。

産業組織パートのテーマは「日本の企業の国際オープンイノベーションが生産性を向上させるのか?」です。欧米企業と比べて日本国内のイノベーション活動が活発ではないことから、国の枠を超えたイノベーション活動である国際オープンイノベーションが日本の製造業の生産性を向上させるのかどうかを論じます。

・テーマの動機と注目点

競争政策パートのテーマ設定の動機は、政府が目標として掲げた 2030 年までのエネルギーミックスの達成が可能なのかどうかを経済学的に分析したいと思ったことです。

経営戦略パートのテーマ設定の動機は、コロナ禍による健康意識の高まりとプチ贅沢需要の高まりというスイーツに対する新しい傾向が生まれていることから、消費者のアイスの購買行動がどのように変化しているかを推定しようと思ったことです。

産業組織パートのテーマ設定の動機は、日本におけるイノベーションが欧米諸国に比べて活発ではない現状を踏まえ、製造業におけるイノベーションの効果を分析したいと思ったことです。

競争政策パートの注目点は環境問題の改善に向けて重要となる太陽光発電の普及が目標水準に届くのかどうかを経済学的に分析しているところです。

経営戦略パートの注目点は身近なスイーツであるアイスクリームの需要構造の変化を経済学的手法によって明らかにするところです。

産業組織パートの注目点はイノベーションに関する制度などの情報を活用しながら日本の製造業とイノベーションの関係を分析するところです。

一上響研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 2 教室

・パート名とテーマの概要

一上響研究会ではゼミ生 11 人を 4 人、4 人、3 人に分け、それぞれ「コロナ」「物価」「為替」のグループで論文を作成しました。
「コロナ」班のテーマは「コロナ感染が日本の少子化に及ぼした影響と将来予測」です。
「物価」班のテーマは「食料自給率が食品価格の変動に与える影響」です。
「為替」班のテーマは「為替変動が訪日観光客数に与える影響」です。

・テーマの動機と注目点

春学期のゼミ活動の 1 つとして毎週ゼミ生が交代で気になるニュースを発表する機会がありました。この発表を通して現代の日本で注目されている話題の中から、更にゼミ生が深掘りして研究したいと考えた 3 つのキーワードが「コロナ」「物価」「為替」でした。詳しいテーマ設定のモチベーションは是非、論文をご覧ください。

私たちの論文の注目点は、どのテーマも現代日本における経済を様々な視点から分析するため、過去から現代まで幅広い範囲のデータを分析対象とした点です。また私たちのゼミは今年から設立されたゼミで、先輩がいない中でも一上教授からの丁寧な指導やゼミ生のそれぞれの知識や得意分野を組み合わせることで論文を完成させることが出来ました。拙い部分はあるかもしれませんが、最後まで読んでいただくと幸いです。

大垣昌夫研究会

・ブース設置場所

南校舎1階411教室

・パート名とテーマの概要

①「因果応報を信じる世界観が寺社仏閣での購買行動に与える影響」

自分の行動が結果に表れると考える因果応報と寺社仏閣でのお賽銭・お守りの購入に着目し研究を行った。

②「共同体感覚が推し活に与える影響」

SNSの発達などでファンコミュニティが生まれるなど、推し活と共同体の関係が密接になっていることに焦点を当てた。

③「完璧主義と穢れの意識が中古品の購買行動に与える影響」

三種類の完璧主義と、穢れの意識が、中古品への支払い意欲にどのような影響を与えているのかを研究した。

④「開拓主義と経験重視主義がリピート購入に与える影響」

「開拓主義の傾向が強い人ほどリピート購入を行わず、経験重視主義の傾向が強い人ほどリピート購入を行う」という仮説のもと、開拓主義・経験重視主義とリピート購入率の関係を考察する。

⑤「他者評価を重視する世界観が贈与行動に与える影響」

他者評価を重視する世界観、選好、所属するコミュニティにおける規範が、贈与行動にどう影響を与えるかを調査しました。

⑥「迎合主義が大学デビューに与える影響」

大学デビューという言葉をご存知だろうか。我々は、この言葉の定義を明確化し、どのような人が大学デビューを行うのかを研究した。

・テーマの動機と注目点

①多くの日本人は初詣などを行うが、日本人の6割以上が無宗教といわれている。そこで私たちは興味があった不確定の未来への投資に着目し、本研究を実施した。因果応報を強く信じるほど、お賽銭やお守りの投入意欲や購入額が高いという仮説に対し、85%以上の分析で仮説を支持する結果が出たことに注目して読んでほしい。

②共通の趣味が、コミュニティ形成の要因となることは多い。それに加え現代では、SNSによるファンコミュニティの形成や推しとの交流が発達した。このことから、コミュニティへの適応・推しとの繋がり強化を望む共同体感覚が強い人ほど推し活に力を入れるだろうと予想し、研究を行った。共同体感覚を形成する要素ごとに結果が異なる点に注目だ。

③バブル経済崩壊後から従来の小売業が弱体化し、人口が増加から減少へ傾き商品需要が頭打ちになった2000年前後に、中古品市場は本格的な拡大を見せた。2015年の国連サミットではSDGsが採択され、世界的にリユース・リサイクルを推進する流れが生じている。循環型の社会の実現に寄与すべく、私たちは特定の世界観が中古品の利用に影響していることを明らかにした。特に、三種類の完璧主義のうちの一つである「自己志向型完璧主義」と穢れの意識が中古品の購買行動に強い影響を与えていることに注目してほしい。

④情報化社会の中で消費者が得る商品情報数は飛躍的に増加し、購買行動において選択肢は拡大した。その中で同一商品を購入し続ける、すなわちリピートするという意思決定にはなにが影響するのかを考察することで、企業のリピート購入促進マーケティングに活かせると考えた。データを元にした分析の中で、特に開拓主義について多くの有意な結果が得られた点が注目点である。

⑤日本人と、欧米人で贈与行動に大きな差があることに興味を持ちました。例えば、日本人はお土産をよく買うのに対して、欧米人はあまりお土産を買いません。こうした経済行動の差には、「他者評価を重視する世界観」が大きく関与するのではないかと考え、研究テーマとしました。

⑥大学デビュー。この言葉は、大学生には聞き馴染みがあるだろう。そもそも、どんな世界観を持つ人が、大学デビューするのだろうか。この興味をもとに、本研究を実施した。基本的に、迎合主義の人は大学デビューしやすい。特に、携帯の機種を決める際にも周囲に迎合するような人は、大学デビューしやすい。この結果に注目して読んでほしい。

太田淳研究会

・ブース設置場所

南校舎4階443教室

・パート名とテーマの概要

①「日本におけるムスリムの土葬問題について」～大分県日出町における土葬問題を事例に～

日本は火葬大国の中、ムスリムは宗教上土葬出なくてはならない。そこで土葬墓地建設を巡って様々な事例を取り上げ、深掘りをしていく。

②在日外国人と孤立出産-技能実習生に焦点をあてて-

ここ数年で増加している外国人。その中でも、「奴隷制度」と各国に批判を受けている「技能実習生」の数は国内で多くの人口を占めている。近年、技能実習生の孤立出産による死体遺棄事件は後を立たない。その原因は、特有な制度である「技能実習制度」によるものなのだろうか。それだけではない原因があるならば、今後受け入れていく外国人に私たちはどのように向き合っていくべきか。また「孤立出産」は外国人という枠組だけでなく日本社会でも問題視されている。女性が負わねばならない責任の大きさはどのように改善できるのか。どうすれば孤立出産はなくせるのか。この論文では、技能実習生の死体遺棄事件に主に着目をし、その問題の原因を多角的な視点で分析をしていく。

・テーマの動機と注目点

①テーマの動機は実際に日本で出会ったムスリムが土葬について課題を抱えていたためだ。注目点は文献やメディアには取り上げられてない当事者たちの生の声をもとに研究を進めた点だ。

②2020年11月に熊本県で22歳のベトナム人技能実習生「リンさん」は双子の赤ちゃんを孤立出産したが、その後死体遺棄の有罪判決がくだされた。この事件は、支援者をはじめ多くの方々によって問題視され「リンさんの無罪を求める支援集会」は何度も開催されている。技能実習生による死体遺棄事件はこの事件だけでなく、近年相次いで起きている。また支援者への複数回のインタビュー調査を通して、技能実習生による妊娠出産に関する相談事例が多数あることが明らかになった。これらから、私たちは技能実習生による妊娠問題に問題意識を感じ、テーマに設定した。

この問題は「技能実習制度」だけに限られず、「在日外国人」や「女性」の問題も複合的に絡まっているからこそ、技能実習生当本人の声を聞くだけでなく支援者や他の在留資格の人へのインタビュー調査を行って多角的な視点で分析と行った。

大沼あゆみ研究会

・ブース設置場所

南校舎3階433教室

・パート名とテーマの概要

『鉄鋼業界における水素戦略のシナリオ分析』（エネルギー班）・・・2040年から本格的に水素を導入する鉄鋼業界。化石燃料由来の水素を輸入する状況と再生可能エネルギー由来の水素を製造する状況、どちらが生産者にとって好ましいかをシナリオごとに分析し、グリーン水素を促進するために必要な炭素税率を算出することで妥当な水素の供給方法を調査する。

生物班

生物班は畜産における温室効果ガスの排出問題に着目し、その中でも牛の畜産の際に排出される、牛のゲップに含まれるメタンガスやその他CO₂などの温室効果ガスの削減をテーマとする。また具体的な削減の取り組みとして、ダチョウ肉によって既存、及び将来の牛肉への需要を代替し、牛畜産からダチョウ畜産への部分的移行を図る。

ゴミ問題班

日本でも問題視される食品ロスを減らすためにはどうしたらよいかという問題意識から、昨今の記録的な円安やウクライナ侵攻による食料品の価格上昇へ思考を巡らせ、家計支出の4分の1を占める食料の負担を食品ロスによる無駄を見直すことによって減らす解決策を探る。

・テーマの動機と注目点

『鉄鋼』（エネルギー班）・・・世界で排出される二酸化炭素の8%を担う鉄鋼業界は、製鉄の過程で消費する石炭を水素に置き換えることで二酸化炭素排出量の大幅削減に取り組んでいる。技術の検証が行われており、2030年には市場に顕在化するとされるこの技術は、日本では2040年から導入される。水素から作られた鉄鋼製品は二酸化炭素を排出しないグリーンスチールとして市場に供給される。水素を用いた製鉄技術が導入される一方で、水素をどのように供給するかといった課題は解決していない。化石燃料を用いて水素を製造・供給することが望ましいのか、もしくは再エネから作られる新しい方法が望ましいのか。妥当な水素の供給方法を今後起こりうるシナリオごとに分析していく。

生物班

ダチョウ畜産は牛畜産に比べて飼育中や出荷時に排出される温室効果ガス量が大幅に小さく、環境コストが抑えられる。それだけでなく、ダチョウ畜産では与える飼料における穀物の割合が少なく、飼料が人間の食料と競合しないという利点や、ダチョウは肉だけでなく、羽毛や脂などを化粧品などの製品に加工販売できるという点があり、持続可能な畜産を考える上で注目されるべきである。さらにダチョウ肉は他の鶏肉とは違い、赤身肉であり、食感や食味が牛肉に近いことが牛肉への需要の代替になりうると考えられる主因である。経済的分析としては、牛肉需要を代替できるほどのダチョウ肉の供給量を確保するために必要な、ダチョウ肉の大量生産化の実現可能性について注目し、費用と便益、既存の法制度や補助金政策を鑑みながら分析していく。

ゴミ問題班

食品ロスは大量の食料が無駄になるというだけでなく、焼却や埋め立てによる環境悪化や将来的な人口増加による食料危機などの問題を引き起こす。また日本では、食料品の価格上昇により家計の負担がさらに増大することが見込まれる。しかし、家庭で購入している食品を食べ残しや手つかずのまま廃棄している部分を工夫によって減らすことができれば、余分にしていた食料品への支出分を食料品価格上昇分に充てられるのではと考えた。宅食サービスやフードバンクなどの最も効果的な活用方法と食品ロスと家計の負担の削減について分析していく。

大平哲研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 2 教室

・パート名とテーマの概要

高島平パート

「高島平の子育て支援政策について」

概要：高島平の子育て支援政策における放課後居場所づくりは有用である。

スリランカ農業パート

「スリランカ茶業へのスマート農業の導入について」

概要：スリランカ南部の小規模茶業従事者は低コストなスマート農業を導入すべきである。

小値賀パート

「小値賀の観光推進について」

概要：小値賀島は人を資源とした観光を推進することで地域活性化を図ることができる。

つくば市 LRT パート

「つくば市への LRT の導入について」

概要：つくば市は渋滞や環境課題の解決、賑わいの創出のために LRT を導入するべきだ。

・テーマの動機と注目点

ニュータウンの少子高齢化に興味を持ち、高度成長期に急激に人口が増え、少子化が進行している高島平を選んだ。そして調べていくうちに高島平の子育て支援事業に着目した。注目点は高島平の放課後居場所づくりの現状とその可能性である。

元々発展途上国の農業・農村地域に興味があったためスリランカ茶業をテーマに選んだ。スリランカ茶業は中央部は大規模プランテーションにより栄えているが、南部は小規模農地での伝統的農業が主流で所得が低い現状がある。注目点は情報通信技術を用いた新しい農業がどう課題を解決し、所得向上を可能にするかである。

人との交流を軸とした観光について研究したいと思い、地元民と観光客の交流を観光資源としている小値賀島を研究対象に選んだ。注目点は小値賀島ならではの体験型民泊の魅力を活かした観光を推進することで、島にどのような変化をもたらすかである。

LRT に興味を持ち、自動車に依存して渋滞や排気ガスなどの課題があるつくば市の交通を対象にした。注目点は課題を解決する上でどのように市に LRT を導入させ、どれくらいの効果をもたらすかである。

笹原彰研究会

- ・ ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 1 教室

- ・ パート名とテーマの概要

The Sasahara seminar studies a variety of topics on international trade and international macroeconomics from empirical and theoretical perspectives. We focus on data and empirical methods, which are both practical and useful due to an increasing demand for this knowledge in the private and public sectors as well as academia.

The faculty advisor of this seminar is Akira Sasahara who specializes in international economics. We are an international community consisting of talented students from unique backgrounds, and all seminar activities are conducted in English. We believe that the diversity of our community provides us with a creative and fun learning environment. This year, the juniors from Sasahara seminar are working on group projects on the following topics: climate change, remittances, trade in wastes, and trade in robots.

- ・ テーマの動機と注目点

- ・ Trade in Robots

The recent advancement in technology has allowed a number of robots to replace workers in various industries. Since robotization seems to deprive people's job but increases productivity at the same time, certain concerns may appear whether the robotization does good to society or not. Our group has decided to look into the different impacts of automation on employment in developed and developing countries.

- ・ Trade in Waste

Our study focuses on the trade in waste, and the determinants of importers and exporters to engage in such trade. We were motivated to research this topic as there is an ongoing debate regarding the causes of trade in waste. Our study aims to summarize each stance of view, and also explore current and past world statistics regarding this topic.

- ・ Remittances

The recent development of technology for online sending systems and the development of transportation has allowed remittances to increase significantly in the past years. This flow of money usually from developed countries to developing countries can be defined as money that migrant workers send to their families in their home countries. In our study, we focus on the economic impact of remittances from a variety of aspects such as poverty, economic growth, and education and health.

- ・ Climate Change

Our climate change group is currently investigating the economic impacts and indirect effects climate change may have on factors such as migration, energy consumption, innovation and economic growth across different economies of developed and developing countries. With our lives affected by extreme weather more now than ever, we will analyse temporal data trends to break down the complex relationship the climate has with our world and evaluate various measures that have been implemented by governments worldwide.

加島潤研究会

・ブース設置場所

南校舎3階433教室

・パート名とテーマの概要

1. 木島・梯 『2000年代以降におけるシンガポールの産業・教育政策の関連性』
2. 大塚 『横浜における華僑社会の変化～横浜の中華学校と中華街を事例に～』
3. 岩瀬 『東アジアの文化の発信拠点は日本であり続けるのか』
4. 今井・吉岡 『中国学歴社会の特色～学部卒の進路国際比較～』
5. 佐々木・磯部 『中国における農林水産業の集積とその特徴』
6. 位田・吉田 『日本と中国におけるタバコ産業衰退の分析』

・テーマの動機と注目点

1. 政府と教育機関が連携して優秀な人材を作り出していると考え、その関連性を分析することにした。1960年代から現代に向けて様々な政策が実施されてきたが、2000年代以降の政策とそれ以前の政策にはどのような違いがあるのか注目してほしい。
2. 私自身が華僑であり、興味があった。また、華僑における学校への研究がなかった。注目点は戦後の学校に通う華僑の変化がいつごろ起きているかという点である。そこから横浜華僑社会や横浜中華街が変化を始めた時期やその理由を考えていきたい。
3. これからのファッション産業内での中国の立場は、アパレルメーカーでもあり、文化やデザイナーなどの輩出地という、これまではなかった役割を担うのではないかと仮説を立てた。また、その検証を行う中で、現時点での東アジア発ファッションとして、20世紀から世界的に名前を広く知らしめてきた日本人デザイナーや、今後の人口推移など、2国間の比較を通して、中国のファッション産業の未来がどのようなようになっていくかを論じていきたい。
4. 現在、中国は超学歴社会となっています。私たちは、その中でも大学院の進学率が日本やアメリカと比べてここ数年急速に上昇していることに注目し、その原因を考えることによって、中国学歴社会の特徴を見出そうとしています。
5. 中国は農業大国である。私たちは、そんな中国国内での農産業における集積の特徴を、データをもとに分析したいと考えた。関数を用いることで改めて結論付ける、このような過程を経た上での考察に注目していただきたい。
6. 中国は世界のシガレットの消費・生産の4割以上、葉タバコ生産の4割前後を占めている「タバコ大国」である。タバコ税率引き上げとタバコ税収・販売数量の関係、日本と中国それぞれの国の政策・条約とタバコ生産量の関係の2点が注目点である。

河端瑞貴研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 1 教室

・パート名とテーマの概要

【A 班】A 班は、「岡山県における災害リスクの地価への影響」について、固定効果モデルを用いて分析しました。QGIS を使用してオープンデータの加工を行い、さらに R を用いてモデルを作成し実行しました。得られた結果から、災害リスクが人々からどのように認識されているのかについての考察を行いました。

【B 班】B 班では「神奈川県横浜市における犯罪率が地価に及ぼす影響」をテーマとしました。被説明変数を地価、説明変数を犯罪率と人口密度とする推定式を、R を用いてパネルデータ分析を行いました。また、人口密度を基準として選定した区ごとの分析を行い、人口密度の差によって犯罪率が地価に及ぼす影響の度合いが変化するかを分析しました。

【C 班】C 班では、「静岡県熱海市の介護施設の最適配置に関するアクセシビリティ分析」をテーマとしました。熱海市の介護施設の需給バランスについて、GIS と R の 2 種類の統計ソフトを用いてアクセシビリティの観点から分析を行いました。それを基に、将来の人口減少を見据えた介護施設の適正な配置について考えました。

・テーマの動機と注目点

【A 班】近年の異常気象に伴う土砂災害や浸水被害のニュースは、私たち生活者の災害に対する意識を変化させるのか、位置情報データによって定量的に判断できないかと考えました。国や自治体が設定する浸水想定区域と、実際に起きた大雨による浸水被害地域の双方をモデルに組み込み、地価に対して被害の影響がどの程度反映されているかを調べました。自然災害の多い日本ならではの研究といえると思います。

【B 班】私たちは、国の調査結果から犯罪数はその土地に住みたいかを判断する価値基準の 1 つであるという事実に注目し、犯罪率が地価に与える影響を分析することで犯罪の不経済について考察することに決めました。サンプル数のデータが多く、犯罪数が多いと考えられる繁華街地区と犯罪数が少ないと考えられる郊外地区をバランスよく有していることから、今回の分析では神奈川県横浜市を分析の対象にしました。犯罪率が高い場所の地価は下がるという一般的な考え方に対して、データを裏付けとする根拠を与えることで犯罪の不経済をより明確に捉えられるようになると考えています。

【C 班】私たちは、日本において進行する高齢化・過疎化・人口減少の 3 点に問題意識を持ち、今回の分析を行いました。分析対象を静岡県熱海市としたのは、熱海市が現時点で高齢化率 50%を超える自治体であったこと、また日本特有の山間部と海岸が近接する地域で、アクセシビリティ上の問題が発生しやすい地域であると考えたためです。今回の分析では、現状のみならず将来の人口推計に基づく分析も行うことで、長期的な視点で考えたときに生じる問題についても提言を行っています。

神田さやこ研究会

・ブース設置場所

南校舎2階 421教室

・パート名とテーマの概要

- 1章 SC・ST に対する留保制度
- 2章 ①OBC への公的雇用に関する留保制度の実現
②OBC への高等教育機関に関する留保制度の実現
女性議員に対する留保制度の実現
- 3章 留保制度がインド社会にもたらした影響と今後の展望

テーマの概要 各種議会での議席数、公的雇用数、高等教育機関の入学許可数など人口比で一定の数値まで社会的弱者に対して優遇を行う留保制度はインド憲法に基づいて1950年から実施された。制定時は指定カースト（SC）、指定部族（ST）に対する留保枠を設けていたが、その他後進な諸階層（OBC）や女性議員に対しても適用されるようになり、現在に至るまで留保をめぐる動きは拡大、多様化している。留保制度が社会的弱者の社会、経済的地位向上に貢献してきた側面は否めないものの、それと同時に上級カーストを中心とした反発を生み、インド社会の分断を引き起こす要因ともなっている。世界最大の民主主義国家とされるインドにおいて、独立以来の社会の基盤となってきた留保制度が現在までどのような影響を与えてきたのかを概観し、さらに留保制度が現在引き起こしている様々な問題や今後の展望について考察することが本論文の目標である。

・テーマの動機と注目点

留保制度はカースト制度というインド固有の歴史的背景に基づいた制度の補償として行われるアファーマティブアクションであるが、その背景の複雑さから明確に描き切ることが難しい。その拡充をめぐる政府と司法の対立が起きるように、政治、法律、経済など複数にまたがって論点となりうる制度であり、多面的な見方が必要となる。一方で、裏を返すとその制度の性質によってインド社会の様々な問題に影響を与えていることから、現在のインド社会を読み解くうえでこの制度に注目する意義は大きい。戦後から実施されている留保制度が現在まで多様化、拡充している背景やその影響、そして今後の展望について考察することにより、現在までのインド社会を支えた留保制度の役割を明らかにし、さらにそれを通じてインド社会が現在抱える問題を紐解きたい。

小林慶一郎研究会

・ブース設置場所

南校舎4階 441教室

・パート名とテーマの概要

- 1章 はじめに
- 2章 モデル
- 3章 実証分析

テーマの概要 近年、日本における賃金格差は拡大の一途をたどっている。また、その格差も、男女・世代・雇用形態など、様々である。我々が、研究対象とする賃金格差は、若年労働者と高齢労働者の格差である。本稿の趣旨は、技術革新の方向性を媒介とし、生産要素供給量と賃金プレミアムの関係を、マクロ・ミクロ経済学的に解釈することにある。直観的には、ある特性を持った労働者の供給量が増加することで、その労働者に優位な技術革新が生じ、賃金プレミアムを増加させる。つまり、老齢労働者の供給量が増加すると、高齢者を増強する技術革新が生じ、彼らが所得を増やす機会をより多く得ることとなる。

・テーマの動機と注目点

少子高齢化という人口構造の変化が日本経済に及ぼす影響として、賃金格差に注目したのが本稿の動機である。なぜ、若年層と高年層の間に賃金格差が生まれるのかという経済学的な理論の支えとなるものが Directed Technical Change という論文の理論である。実際のデータに基づいて、この理論が成り立っていることを検証している。急速に少子高齢化が進んでいる日本において、その経済学的な影響はどのようなものになるのかという問いへの答えの一つになるものだと思う。

坂井豊貴研究会

・ブース設置場所

南校舎 4階 4 4 2 教室

・パート名とテーマの概要

参院選パート：「参議院議員選挙における非拘束名簿式の導入が当落要因に及ぼした影響」

ゼミマッチングパート：「経済学部の入ゼミ方式への改善提案」

野球パート：「東京六大学野球において慶應の勝利に寄与する要素の分析」

分散型取引所パート：「Curve Finance における投資家の行動分析」

・テーマの動機と注目点

参院選パート

動機：近年、芸能人などのインフルエンサーが選挙に立候補して当選することが増えてきた。最近の参院選では暴露系 youtuber のガーシー氏が当選を果たし、民意が反映されているかどうかの論争もあった。この出来事から、非拘束名簿式の導入によって参院選で当選するにはどの要素が重要になったのか疑問を持ち、今回の研究を始めた。

注目点：今回の研究は非拘束名簿式が導入される前と後で行われた参院選の立候補者たちの属性を分類し、統計学的な分析をする事で、非拘束名簿式の導入で何の要素が当選するために重要になったのかを分析した。

ゼミマッチングパート

動機：多くの経済学部生は、2年生の3月頃から「入ゼミ」と呼ばれるプロセスを経て、現在の研究室に配属が決定される。3年生になった今、ミクロ経済学やメカニズムデザインについて理解を深めて行く中で、本経済学部がとる手段は、配属先を決定する手段として最適なのかという疑問を持ち、本研究を始めた。

注目点：本論文では、慶應義塾大学の各学部が生徒をゼミナール・研究室へ配属する際、利用している手段について共通点と相違点を分析し、DA アルゴリズムを検討することで、経済学部生の希望が反映できるマッチング制度にするために、改善すべき要素を考察する。

野球パート

動機：東京六大学野球 2022 年度春季リーグ戦において、慶應は明治、法政に敗北し、準優勝であった。過去の試合結果を分析することで、慶應が各大学に勝利するためには、投手、攻撃、守備のどの要素が重要になってくるのか知ることができるのではないかと考えた。

注目点：東京六大学野球のホームページより、慶應の出場試合の投手、攻撃、守備についての情報を集め、それぞれと勝敗に相関関係があるのかに着目した。また、それぞれの要素を強化した際、勝利の可能性がどの程度上昇するのかにも注目した。

分散型取引所パート

動機：Curve Finance とは、ステーブルコインに特化した分散型取引所である。Curve が革新的だったのは、LP トークンをステーキングする報酬として受け取った\$CRV トークンをロックすることで、Curve を運営する分散型自立組織における投票力を得られる仕組みを導入したことである。これにより、投票を通じて\$CRV 報酬をブーストできることから、投資家には多量の\$CRV を保有し、ロックするインセンティブが与えられている。本研究では、Curve における投資家の状況をモデル化し、最適な流動性供給量や\$CRV のロック量を探ることが試みられた。

注目点：日本で初めて、Curve について扱い、状況のモデル化を試みた研究である。

櫻川昌哉研究会

・ブース設置場所

南校舎1階411教室

・パート名とテーマの概要

パート名：真のインフレで日本経済を救え

テーマの概要：日本がインフレーションを経験したのは最も近い時期でも、バブル期の1980年代のことであり、30年も前のことであるはずだった。しかし2022年に入ってから急速にインフレ率は上昇し、直近のIMFの推計では1.99%とされている。しかし、日本は好景気であるとはいえない。物価は上がっているのに、人々は豊かになっていない。そこで、好景気を伴う良いインフレ、デマンドプルインフレを起こすべきだと考えた。今の日本経済に起きている奇妙な状況を分析し、日本政府という立場を特定して、どのような政策をとることで良いインフレを起こすことができるのかを論じていく。また、良いインフレが継続し日本経済が再び活性化するために、インフレを実現する政策について、短期的・長期的の両面から考え、提案していきたい。

・テーマの動機と注目点

動機：1991年の「バブル経済」の崩壊以降、日本経済は「失われた20年」という長い低迷期を迎えた。これは国内総生産(GDP)の上昇が緩やかであること、そして日経平均株価の推移が1990年以降減少傾向にあることから伺え、日本がいかに世界的に見ても経済の成長において遅れを取り、低迷していたかがわかる。「失われた20年」に伴い物価の低迷も継続し、日本は長期にわたってデフレの状態に陥っていた。そうした中、2022年度に日本は悲願のインフレ到来を迎え、物価上昇率は日銀の目標であった2%に近い1.99%を記録した。しかし、コストプッシュ型の物価上昇に対して賃金上昇が追いつかず、今日において人々の生活が豊かになったとは言い難い状況となっている。変化の激しい情勢の中、本年度インフレという大きな転機を迎えた日本は、経済全体を潤すために政策方針を練り直す必要があると言えるだろう。そこで、日本経済を活性化させるために、デマンドプルインフレを起こす必要があると考え、そのための政策を模索することとした。

注目点：2022年に入ってから、まさに今の日本経済の状況を分析した。また、この分析を踏まえて、日本経済を救う真の良いインフレを起こすための有効な政策を提言していく。

佐藤祐己研究会

・パート名とテーマの概要

① ESG(グリーンアム)

環境改善や社会貢献に何らかの効果のある事業を資金用途とした債券である ESG 債が通常の債券に比べて利回りが低くなる「グリーンアム」という現象がある。この現象は欧州を中心にみられ、日本では観測されないとされている。その真偽を分析によって明らかにしていく。

② マーケット(インフレ)

インフレと資産のパフォーマンスを分析し、「インフレに強い資産」を日本や米国などの主要国を中心に国別で分析する。

③ New Finance(広告)

スマートフォンゲームの広告を形式や内容に応じて分類・評価し、その不快感指数とアプリのダウンロード数等の指標の間の関係性を分析する。

・テーマの動機と注目点

① ESG(グリーンアム)

需要の高さによる低い利回りが許容されているという現象に関心を持ったことと日本におけるグリーンアムの分析が未だ多くないことがテーマの動機である。日本におけるグリーンアムの有無に関するものだけでなく、業種による差異やグリーンアムが発生しやすくなる要因などを調べた様々な分析が注目点である。

② マーケット(インフレ)

今年に入り世界中でインフレ市場となっている。他国と比較すると穏だが日本も例外ではない。新聞など世間では「ディフェンシブ株」や「不動産投資・金投資」などが「インフレに強い」と謳われている。しかしそれらが名目では良いパフォーマンスでも、実質で考えた場合・国を変えることによって正しい「インフレに強い」が判断できると考えた。ここ10年のデータを用いて国別でインフレ下において実質でパフォーマンスを出している資産の特定を目標とする。

③ New Finance(広告)

近年、SNS やアプリ内において特徴的なゲーム広告が頻繁に登場することが話題を呼んでいる。具体的には、簡単な選択肢を間違え続ける演出で視聴者のフラストレーションを溜めさせるようなものや、広告と実内容が大きく乖離しているようなものなどがあり、イギリスの広告基準協議会が表示禁止を命じるに至った事例すら存在している。一消費者としては、このような広告の仕方はアプリのダウンロード数や評価値等に負の影響をもたらすのではないかと印象を抱きがちである。本論文では、実際にどのような影響が生じているかをデータの比較・分析を手段に解明することができないか試みる運びとなった。

白井義昌研究会

・ ブース設置場所

南校舎 1階 4 1 1 教室

・ パート名とテーマの概要

パート名:貿易班

機械設備の相対価格や中間財、総要素生産、平均労働生産性などのデータを用いることで国際貿易を始めとするグローバリゼーションの進展と生産機械設備における技術レベルの進展の停滞の関係性について調査を行った。また、上記の 2 つと先進各国における平均労働生産性の停滞との関係性について調査を行った。

・ テーマの動機と注目点

テーマの動機

高橋教授と高山教授の論文によると、先進各国の平均労働生産性は 2006 年を転換点として停滞しているが、この停滞の原因の大部分が「生産設備の技術レベルの停滞」にあるとされている。しかし平均労働生産性はグローバリゼーションの進展とも関係性があると考えられる一方で、この論文ではグローバリゼーションの進展の一例である国際貿易に対して一切考察がなされていない点で問題があると考えた。そのため、グローバリゼーションと平均労働生産性との関係性について研究することにした。

注目点

国際貿易やグローバリゼーションと機械設備部門における技術レベルの進展の停滞の関係性を発見しようとした。また、この関係性が認められた場合に先進各国で起きている平均労働生産性との関連性がないかどうか調査を行った。

千賀達郎研究会

- ・ ブース設置場所

南校舎 2階 421 教室

- ・ パート名とテーマの概要

テーマは企業の投資行動と法人税制度
パートは一つだけでマクロシミュレーション

- ・ テーマの動機と注目点

法人税と企業の投資行動の関係を調べていく中で中小企業と大企業への税制度の違いがどのような影響を与えるのかに着目して研究することになりました。注目点はモデルの作成から演算システムを用いて分析する本格的な実証研究です。

田中幹大研究会

・ブース設置場所

南校舎2階421教室

・パート名とテーマの概要

パート①M&A

研究テーマとしては「中小企業白書にて M&A の優良事例として紹介されるような中小企業において、その後は成功しているのか」です。売上の面に限らず、何をもって M&A における成功なのかを実際に調査をしていく上で明らかにしていきます。

パート②デジタルトランスフォーメーション (DX)

中小企業における DX 推進によって受けられる恩徳や、推進するにあたっての問題点について、企業調査を通じて明らかにします。

・テーマの動機と注目点

パート①M&A

私たちの班は承継問題を始めとした中小企業の抱える様々な問題を解決する1つの策として近年話題になっている M&A に注目しました。実際に M&A を行うことは中小企業にとってプラスの効果を生み出しているのか疑問に思い、先行研究を調べたところ株価について等の数値でわかるデータ上の研究しかされていないという課題があり、そこで M&A を行った中小企業に実際に訪問調査しその答えを明らかにする試みに意味があると思い論文を執筆するに至りました。

パート②デジタルトランスフォーメーション (DX)

業務フローの改善や新たなビジネスモデルの創出が期待できる DX は近年注目されていますが、大企業ではなく中小企業にターゲットを絞った場合、どのような効果が期待できるか、更に特有の弊害が生じるのであればそれはどういったものなのかという点に疑問を感じ、このテーマを選定しました。既に DX 化を推進している中小企業へ訪問調査を行い、これらの答えを論文にて明らかにする予定です。

玉田康成研究会

・ブース設置場所

南校舎 4階 4 4 2 教室

・パート名とテーマの概要

・企業戦略 a

日本で EV を普及させるための施策について、消費者の向社会性を含めたモデルの分析から考察する。

・企業戦略 b

デジタルサブスクリプションにおけるフリーミアム戦略の成立可能性

・行動経済学

衣服ロス抑制およびサステナブルファッション推進のためのナッジデザイン立案

・インセンティブ

男女の賃金格差是正が企業にとって合理的であり得ることを示す

・マーケットデザイン

日本における炭素排出量取引オークションの設計

・テーマの動機と注目点

・企業戦略 a

中国、欧州を中心に世界で EV の販売台数が増えている一方で、日本では未だに普及が進んでいない点に注目した。モデルを用いて EV の普及に補助金政策が最適ではない場合もあることを示し、他に企業・政府が打てる施策についても提案する。

・企業戦略 b

（動機）フリーミアム戦略をとる spotify が人気の裏で赤字を出し続けていたことが気になったから。（注目点）フリーミアム戦略は現実的な価格設定により収益を収めることができるか。

・行動経済学

衣服の墓場問題の深刻化から、改善の必要性を感じた。注目点は、強制や金銭的インセンティブを用いない「行動経済学」ならではの施策。

・インセンティブ

日本で男女の賃金格差が深刻であることを受けてテーマを設定した。人事評価制度の変更が男女両者の努力のインセンティブを引き出すことを示す。

・マーケットデザイン

炭素税と排出枠オークションを選択式にすることで多様な企業に最適な方法が提案できるようにした。

津曲正俊研究会

・ブース設置場所

南校舎1階411教室

1. ゲーム理論パート

・パート名とテーマの概要

パート名はゲーム理論パートです。テーマの概要は、戦争と世論の関係についてゲーム理論を用いて分析するというものです。

・テーマの動機と注目点

ロシアウクライナ戦争が勃発し「戦争」というものがそう遠くないものを感じ、なぜ多大なコストがかかる非合理的な戦争が起こってしまうのかに興味を持ったことがきっかけです。本来様々な要素が絡まっており複雑な戦争を、ゲーム理論を用いて簡潔に説明しているのでそこに注目してもらいたいです。

2. メカニズムデザインパート

・パート名とテーマの概要

パート名はメカニズムデザインパートで、テーマはフードロスを減らす制度設計についてである。現代では、フードロスが大量に発生しており、それを解決する画期的な方法が見つかっていない。そのため、フードロスを減らすための制度を設計できるかどうかについて考えることにする。

・テーマの動機と注目点

このテーマを選んだ理由は、フードロスが現代の社会問題の1つであることと、それを解決するような制度を作り出すことができるかどうかを模索したかったからである。フードロスが大量に発生している現代社会において、フードロスを解決するような制度設計について考えることは非常に有意義だといえる。また、このパートの論文の注目点は、モデルや数式を用いて、フードロスの発生原因の究明だけでなく、それを解決するにはどうすればよいかということまでを深く考察した点である。さらに、フードロスが発生している主な場所は企業と家庭であると考えられるので、この2つについて着目するだけでなく、フードバンクからの視点も取り入れて考察を行った点にも注目していただきたい。

3. マッチングパート

・パート名とテーマの概要

パート名はマッチングパートです。テーマの概要はマッチングアプリについてです。メカニズムという観点から、既存のマッチングアプリの欠点を提唱するとともに、それを補うような最適なメカニズムの提案を行います。

・テーマの動機と注目点

今日、オンラインでの出会いが当たり前になりつつあるが、そのリスクも言及されるようになった。オンラインでの出会いのツールとして代表的なマッチングアプリがより安全で、かつより理想的な相手とマッチできるようなものが提案できないかと考えた。

土居丈朗研究会

・ブース設置場所

南校舎3階433教室

・パート名とテーマの概要

今年度の三田祭論文執筆においては4つのパートに分かれ活動しています！
土居丈朗研究会では、ゼミ員が興味のある分野を中心に話し合い、執筆する論文テーマを自由に決定します。

<今年度のパート>

・ **防災パート**

新型コロナウイルス感染症の医療対応に教訓を得た今後の災害医療の在り方

・ **教育パート**

教育機会の地域間格差是正に向けて～中高一貫教育の優位性を踏まえて～

・ **地方創生パート**

赤字路線の存続～内部補助からの新しい形へ～

・ **社会保障パート**

ワークライフバランスの適正化

・ テーマの動機と注目点

・ **防災パート**

私たちは論文を通して日本における社会課題の解決に貢献したいと考え、私たちの学生生活に多大な影響を与えた新型コロナウイルス感染症・医療について研究することにしました。本論文では、新型コロナウイルス感染症がもたらした「医療ひっ迫」を切り口にコロナを災害と捉えた上で今後の日本の災害医療体制の在り方について言及します。

・ **教育パート**

私たちは教育資源の過少性により引き起こされる教育格差について、出生地により大学進学を選択が失われている現状に着目しました。特に中高一貫校の優位性について述べ、地域に根差した6年間一貫教育を提供する公立中高一貫校建設に向けた教育政策について言及します。

・ **地方創生パート**

私たちは昨今の新型コロナウイルス感染症流行の影響により、JR 東日本・西日本が赤字分からの補填により行っていた赤字路線の経営悪化という現状に着目しました。本論文では、日本経済全体に影響を与える社会資本の在り方、特に交通インフラを通して地方創生の新たな形について言及します。

・ **社会保障パート**

私たちは女性目線で語られることの多いジェンダーギャップに焦点を当て、実際に性差によって生活時間にどのような差が生じているかという点について興味を抱きました。本論文では執筆を進める中で特に性差が顕著に表れた、育児時間と労働時間について深く言及します。

直井道生研究会

- ・ブース設置場所

南校舎1階411教室

- ・パート名とテーマの概要

・「原子力発電所再稼働が周辺地域に与える経済効果」
原子力発電所が再稼働した場合に、周辺地域の経済にどのような影響を与えるのか、SC法(合成コントロール法)を用いてデータ分析を行った。

・「赤字ローカル線廃線が与える周辺産業への影響」
廃線となった鉄道路線の沿線と類似の地理的・社会的条件を持つ、現行路線の沿線を比較し、廃線による周辺産業への影響を分析した。

- ・テーマの動機と注目点

・日本における電力不足が問題となる中で、安全性が疑問視されている原子力発電所再稼働の是非が問われている。原発の設置は単なる電力供給だけではなく、設置している自治体の地域経済に影響を与えていることが先行研究で示されている。そこで、原発を再稼働させた場合に原発設置自治体や周辺地域にどのような経済的な影響があるかを考察することで、原発再稼働の是非を考える一つの指標にできるのではないかと考え、本テーマを採用した。統計ソフト stata を用い、合成コントロール法を行うことによって、原発のない自治体の反実仮想データと原発が再稼働している自治体を比較し、原発再稼働が地域の所得に有意な影響を与えているかどうかを検証した。また、その結果から原発再稼働が他産業へどのような間接的影響及ぼす可能性があるのかを合わせて考察した。

・昨今のコロナ禍での鉄道利用者数の減少により、2022年初めてJR西日本がローカル線の営業係数を公開した。従来の都市圏の鉄道収益で赤字ローカル線を支える構造は維持不可能であり、廃線を含めたローカル線の今後のあり方に関する社会的議論が避けられない状況となった。一方でこのような議論の障壁に必ずなるのが「鉄道が無くなると街が廃れる」という論調だ。この論調が正しいかは議論が分かれるところである。なぜなら、鉄道があってもなくても街が廃れていく傾向は続いていく可能性があるからである。そこで、私たちが目を背けることが出来ないこれからの地方交通のあり方を議論していくためにも、今回廃線が周辺の街にどのような影響を与えるか分析することになった。特に地理的・社会的条件が似ている、廃止になった三江線と存続した木次線を比較し、廃線が両方の街の運命の別れ道となったのかどうか注目である。

長倉大輔研究会

・ブース設置場所

南校舎4階443教室

・パート名とテーマの概要

競馬

異なる機械学習モデルの回収率の比較

野球

統計上有効なファストボール(速球)とは

株 A

ESG のそれぞれの項目(環境・社会・ガバナンス)ごとに考慮した ETF のボラティリティ変動分析

株 B

DTW を用いた株価指数変動予測モデルの分析

・テーマの動機と注目点

競馬

正解データの性質が異なる場合に、モデルに与える影響を知りたい

3着以内に入るか否かを予想する「分類問題」

走破タイムを予想する「回帰問題」

それぞれ異なる切り口・視点から回収率を分析し、比較を行う

野球

チェンジアップの先行研究に影響を受け、良い速球について分析しようと考えた

良い速球について考えるにあたり、ストレートの速度・回転数に注目する

株 A

株式への興味、それに伴い、今注目されている ESG を取り入れた研究をしてみたい

日本の株価指数との変動の違いを比較し、ESG の項目のうち、結果としてどの項目が有意に影響しているかを検討する

株 B

通常、恣意性が含まれるはずのテクニカル分析を機械的に行い、予測精度を高める試みに興味を覚えた

月や季節ごとの予測精度の違い、株価指数の高騰と下落のどちらがより予測精度を保っているかについても着目する

中嶋亮研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 1 教室

・パート名とテーマの概要

- 1 班：ドコモバイクシェアのポートの設置数の増減は地域の犯罪発生状況に影響を及ぼすか。
- 2 班：食べログと一休、2つのグルメサイトを用いて飲食店の組織形態の違いにより、フェイクレビューの使用傾向は変化するか。
- 3 班：羽田空港の飛行経路変更が周辺地価に与える影響。
- 4 班：レジ袋の削減において、エコバッグ持参者への特典付与と、レジ袋有料化では、どちらの施策の方が効果があるのか。
- 5 班：日本のプロ野球球団において、選手と監督のマッチングは生産性に影響を与えるのか。

・テーマの動機と注目点

1班：近年、地域の手軽な移動手段としてシェアサイクルの利用が普及してきている。私たちはシェアサイクルの普及が地域の人流に影響を及ぼし、地域環境に変化をもたらすという仮説のもと本テーマを設定した。特に地域環境として、地域の犯罪発生状況に着目し分析を行なった。シェアサイクルと犯罪の発生という無関係に見える両者に相関が認められるかが注目点である。

2 班：アメリカのホテルに関して、その組織形態の違いによりフェイクレビューの使用傾向は異なるかを分析した論文を参考にし、日本の飲食店でも同じような現象は起きるのか興味を持ったため、この研究テーマに設定した。食べログと一休という、日本で有名なグルメサイト2つを使用した分析が注目点である。

3班：2020年3月より羽田空港を離発着する航空機が都心部上空を飛行するようになった。航空機による騒音や落下物の危険が飛行ルート周辺の不動産価格に与える影響が危惧されていたが、同時期に新型コロナウイルスの流行が発生し、実際の影響が不透明となっている。この影響を検証すべく、本テーマを選択した。この研究ではDID（差分の差分法）を用いて他の要因を極力排除した条件で分析を行い、航空機の飛行が地価を下落させる仮説が認められるかが注目点である。

4班：レジ袋の有料化が、本当に正の影響を及ぼしているのか興味を抱き、今回のテーマを設定した。プロスペクト理論によれば、意思決定において、「人は利益よりも損失の方を嫌う選択をしてしまう」ことが分かっている。したがって、エコバッグの持参によってn円の割引を行う施策よりも、有料化によってレジ袋をn円負担する施策の方が効果があると考えられる。研究を通して、プロスペクト理論が実証できるかどうか今回の注目点である。

5 班：1950-1990 年台の日本のプロ野球チームと監督のマッチング分析に関する論文を参考にし、1990 年以降の日本のプロ野球チームでは監督とチームのマッチングがチームの勝率に深く関わっているのか興味を持ったため、この研究テーマを設定した。機動力や小技などの戦術を重視する日本の野球チームで、チームと監督とのマッチングが果たして成立するのかが注目点である。

中西聡研究会

・ブース設置場所

南校舎1階411教室

・パート名とテーマの概要

「地方創生を支える3本の矢」

序章

第1章 大学を軸とした地方教育

第1節 都市部と地方の大学選択の格差

第2節 大学と就職の繋がりから見た地方活性化

第2章 地方経済の振興による地方創生

第1節 地方経済の歴史的変遷と地方経済振興のカギ

第2節 地方にある産業の振興

第3節 地方にない産業の創生

第3章 観光地の復興

第1節 観光地の問題点

第2節 今後の観光地の発展策

第3節 観光地の発展

終章

・テーマの動機と注目点

私たちは春学期、『経済社会の歴史』の輪読を行いました。そして輪読を踏まえたうえでゼミ員が各々三田論において書きたいことをそれぞれ提案しました。その提案が教育、仕事、観光という3つにまとまったことからそれらすべて包括する内容はないかと考えました。その結果出てきたのが今回三田論として書き上げた地方創生というテーマでした。

第1章ではなぜ地方での進学先の選択肢は少ないのか、学生は都心部に集まりそのまま就職してしまうのかといった教育の観点から地方創生について考えています。

第2章では第1次産業、第2次産業、第3次産業それぞれにおいて地方に必要なモノは何か考えています。

第3章では地方を代表する産業である観光業が抱えている問題点を提示し、その解決策を提示することで観光を活かした地方創生の道を示しています。

これらの3つの要素を結び付けることで、地方創生を具体化できるのではないかと考え執筆しました。

中妻照雄研究会

- ・ブース設置場所

南校舎4階443教室

- ・パート名とテーマの概要

中妻照雄研究会では、「データサイエンス」「フィンテック」「コーポレートファイナンス」の3つのパートに分かれ、最先端の研究をしています。パートの中でも、論文は個人単位で3年生が執筆しており、データを使った実証分析を行い、興味関心のあるテーマに関する論文を完成させます。

- ・テーマの動機と注目点

中妻照雄研究会では、主に3年生が個人単位で執筆します。春学期期間の論文発表の中で各自が研究した内容のさらなる深掘りを行う目的で実施しており、各々の興味関心に沿い、オリジナルな研究を行っています。テーマは、データサイエンス、フィンテック、機械学習、ベイズ統計学、人工知能、アセット・マネジメント、コーポレート・ファイナンスと多岐に渡ります。各々の情熱溢れる論文を是非、ご一読ください。4年生は今までの研究の集大成として3年生で行った三田祭論文のさらなる深掘りとして、卒論を執筆します。今までの卒論は中妻照雄研究会のHPに掲載されているので気になる方はご一読ください。

橋口勝利研究会

・ ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 1 教室

・ パート名とテーマの概要

・ 日本経済史班
鹿児島県徳之島で顕在化する構造的な課題及び内発的発展理論

・ 大阪企業班
BtoC 参入を通じた、中小製造業振興

・ 大阪副首都班
「副首都・大阪」の住環境向上に向けて、スマートシティ府内全域展開への提案をする。

・ 福島復興班
双葉町、富岡町の復興と地域創生

・ 福島企業班
福島県の廃炉からの転換～再生可能エネルギー～

・ テーマの動機と注目点

・ 日本経済史班
日本社会に求められる地域の特性を活かした持続的振興のヒントを、徳之島で解き明かしたい。徳之島を一つの企業のように捉える中で明らかになったのは、徳之島が持つ潜在能力の高さだ。

・ 大阪企業班
製造業の振興に BtoC が有効な一手になると考えたからである。注目点は、大阪の自治体や企業への現地取材を通じて見えてきた、単なる業態転換にとどまらない BtoC の可能性である。

・ 大阪副首都班
大阪が「副首都」としてこれから発展していく上でのスマートシティの重要性と、フィールドワークを通して見えてきた住環境への課題に是非注目してほしい。

・ 福島復興班
8 月 30 日に避難指示が解除された双葉町の活性化を目指す。帰還だけでなく、新たに双葉町に移住する人びとへのアプローチにも重点を置いた研究を行っている。

・ 福島企業班
東日本大震災で甚大な被害を被った福島県が、マイナスイメージである原子力発電所事故の廃炉作業の身に留まらず、再生可能エネルギーや宇宙産業など新しい可能性を模索している過程が、日本全体の産業構造に大きな影響をもたらすと考えた。

星野崇宏研究会

・ブース設置場所

南校舎1階411教室

・パート名とテーマの概要

[テーマ]

ATMデータによる商業販売額（小売）のナウキャストイング¹

[概要]

計量経済学モデルを用いて、セブン銀行のATMデータから商業販売額（小売）を予測する方法を開発し、その有用性について検証しました。

・テーマの動機と注目点

[動機]

政府統計の商業販売額（小売）は、個人消費を供給側から捉える指標で、四半期GDP速報や景気動向指数の作成にも用いられる重要な指数です。しかし、経済産業省による速報の公開は翌月末にまで遅延します。コロナ禍・安全保障など社会経済状況の変化が激しい昨今、即座に正確な現状を把握し、政治的・経済的な意思決定をする必要性が増しています。政府においても、既存の政府統計速報をより即時に把握することが課題とされてきました。そこで、この商業販売額（小売）をナウキャストイングにより現在形で把握することで、国や企業のよりよい意思決定に貢献できると考えました。

[注目点]

新規性①：商業販売（小売）の予測そのもの

上記のように商業販売額は重要な指数でありながら、現行では予測がほとんどされてきませんでした。

新規性②：POSデータ²ではなく、ATMデータを説明変数とした点

唯一商業販売額（小売）の予測を試みた内閣府のディスカッションペーパーでは、説明変数として日経POSデータ³を採用しています。しかし、日経POSは調査対象の地域・業種・商品が限定的で、商業販売額が対象とする金額のおよそ16%のデータしか取得できていません。対して、セブン銀行ATMは全国に約2万6千台が設置され、各銀行ATMが減少中でも増加の一途を辿っています。これらの理由から、銀行ATMデータの優位性を提唱し、実際にモデルに組み込みました。

新規性③：比較的単純な計量経済学モデルをベンチマークとした点

複雑なモデルや機械学習を用いれば、予測精度を高めることは容易です。しかし、再現性が落ちたり機械学習で求めた過程がブラックボックスになったりと、意義が低下します。そこで、説明性と再現性が高い計量経済学モデルを利用しました。

¹ 過去と現在のデータから目標の現在値を予測するモデリング。

² レジでスキャンされた商品の購買データ。

³ 日本経済新聞社がスーパーマーケット・コンビニエンスストア・ドラッグストアなどから集めた販売実績データ。

前多康男研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 421 教室

・パート名とテーマの概要

前多研究会は三つの班に分けて、グループで日経ストックリーグに向けて論文を作成しています。今年の班はそれぞれ、IT×金融、オープンイノベーション、人的資本をテーマにしています。「IT×金融」をテーマにしている班は、人工知能・ビッグデータを活用した資産運用に着目し、それを活用している企業を選出しています。そして、「オープンイノベーション」をテーマにしている班は、製品ライフサイクルの短期化、顧客のニーズの多様化に対応できるオープンイノベーションに着目しました。オープンイノベーションへ注力していてなお利益率が高い企業を選出しています。そして、「人的資本」の班は、無形資産を着眼点として、社員育成の仕組み、福利厚生、社員構成などの項目で企業をスコアリングして、人的資本を重視なお効率的に使っている企業を選出しています。

・テーマの動機と注目点

前多研究会は全国的な論文コンテスト日経ストックリーグへの出場を通じて、ファイナンス・経営学・経済学のスキル取得を主眼としています。企業スクリーニングを行う時に、伝統的な手法だけではなく、テキストマイニング、ディープラーニング、因子分析など、Python を活用した手法を用いてデータ分析をしています。企業の財務分析をするには、経営学の知識も欠かせないため、輪読で学んだ経営学、会計学の知識を活用することができます。

松沢裕作研究会

- ・ ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 1 教室

- ・ パート名とテーマの概要

松沢裕作研究会では、「近代日本の住まい」という一つのテーマの中でゼミ生がそれぞれのテーマを設定し、研究したものを発表します。

- ・ テーマの動機と注目点

住まいは人間の生活において不可欠なものであり、それを分析することは当時の生活の実態を知るうえで非常に重要であると考えられます。そこで、私たちは「理想の住まい」や「衛生環境」、「都市計画」など幅広い視点から当時の住まいについての研究を行いました。それぞれの研究の共通点や相違点に注目して読んでいただけると面白いと思います。

山田篤裕研究会

・ブース設置場所

南校舎3階433教室

・パート名とテーマの概要

【A班】「放課後等デイサービスを利用する母親の就業支援策の検討」
障害児の母親がケア労働によってどれだけ就業を抑制されるかを分析しました

【B班】「高齢介護職員の労働災害の要因分析、および予防に関する研究」
日本の介護職では高齢化による労働災害の増加や人手不足が問題となっています。そこで先行研究やデータを用いて介護職の現状を分析し、労働災害の減少につながるような政策提言を行いました。

【C班】「妊娠・出産期における女性の退職要因分析」
日本の就業実態における一つの課題である、女性の退職率の多さに注目しています。現状分析及び問題意識を踏まえ、先行研究を参考とした私たちなりの分析と政策提言まで行いました。

・テーマの動機と注目点

【A班】

日本は男女の雇用格差が OECD 加盟国の中でも 2 番目に低く、原因として女性の非正規労働率の高さや性別役割分業の固定化が考えられます。従来型の社会構造において、結婚、妊娠、出産そして育児といったライフイベントは、女性の就業を抑制することが知られていますが、本研究では障害児のケアが母親の就業をどれだけ抑制するかに着目しました。また本稿では、障害児童を持つ家庭に対する福祉サービスとして、放課後等デイサービスを取り上げました。

【B班】

現在の介護業界が抱える大きな問題として人手不足が挙げられます。また、高齢化に伴い、介護職員の多くが、50 歳以上の中高齢者となっています。そこで私たちは、そのような中高齢介護職員の労働災害を軽減することは、多数の介護職員の離職防止に繋がるのではないかと考え、今回の研究テーマに取り組みました。

本研究では、施設介護と訪問介護における中高齢職員の労働災害だけではなく、その一歩手前の出来事であるヒヤリ・ハットの要因も検証し、政策の提言を行っています。介護職員の労働災害について定量的な分析を行った研究は数少ないので、是非ブースまで足を運んでいただけると幸いです。

【C班】

日本の男女の就業格差問題は、改善しつつあります。しかし、依然として格差が残されているのも事実。私たちはその課題を解決する上で、女性の退職も要になるのではないかと考えました。

女性が退職を選択するターニングポイントとして、「妊娠期」と「出産期」が主となることが分かっています。ではその具体的な理由は何か、そして何か変革をもたらすことで退職率を下げることはできないのか。そこに注目していただきたいです。

山田浩之研究会

・ブース設置場所

南校舎1階411教室

・パート名とテーマの概要

・農業班

テーマは途上国の農業発展です。カンボジアにおける道路インフラストラクチャーの整備が、現地の農業生産にどのような影響をどのくらい与えるのかということ进行分析しました。

・自然災害×教育班

カンボジアにて、干ばつなどの自然災害が教育効果にどのような影響を、どの程度与えているのかを分析しました。

・精神衛生班

ミャンマーの売春婦のメンタルヘルスに対して、タバコの使用が与える悪影響の程度は他の要素によってどの程度変わるのかを分析しました。

・テーマの動機と注目点

・農業班

発展途上国の農業発展について、現在でも道路インフラストラクチャーの影響という研究は活発に行われ、様々な議論が起こっています。我々もその議論に一石を投じたいと考え、このテーマを設定しました。カンボジアの道路インフラストラクチャー整備プログラムでどの地域にどれほどの費用がかけられたかというデータと、現地農民の所得・農業生産のデータをもとに、データ分析ソフトStataを用いてその影響を分析・数値化しました。そしてそこからの結果を先行研究と照らし合わせ考察を行っています。

・自然災害×教育班

近年急激に進む気候変動により自然災害は増加傾向にあります。そんな中で各国の経済発展やSDGs達成のために教育は大きな要素で、重要性を増しています。未だに議論が行われているこの二者の関係性について、新たな視点から考察を行いたいと考え、このテーマを設定しました。「自然災害が起こると教育効果が下がる」という仮説のもと、2016年にカンボジアのメコン川周辺で起きた干ばつの影響に注目して当時の家計調査などのデータを分析、考察しました。

・精神衛生班

今回分析の対象としたCSW(性産業従事者)は、発展途上国におけるジェンダー格差の影響を最も受けている職業と言えます。メンタルヘルスに悪影響を与えると言われるタバコ類の使用がそういった人々に与える影響はどの程度か、影響の大きさは所得の高低のような要素によって変化するのかに興味を持ち、テーマ設定をしました。2016年にミャンマーで403人のCSWに対して行われたインタビューから得られたデータを、これまでなかった切り口から分析・考察しました。

和田龍磨研究会

・ブース設置場所

南校舎 2階 4 2 1 教室

・パート名とテーマの概要

グループ 1

テーマ：円/ドルと円/ユーロの為替の予測

グループ 2

テーマ：中国の主要都市における不動産価格に影響を与える変動要因に関する実証研究

グループ 3

テーマ：原油価格の高騰が米国のインフレ率に与える影響

・テーマの動機と注目点

グループ 1

経済的影響が大きい話題になっている等。また、ランダムウォークに対し、アービトラージの可能性も議論の余地があるため。

グループ 2

2019 年の中国各主要都市のデータを用いて回帰分析を行い、不動産価格に影響を与える主な変動要因を明らかにする。

グループ 3

原油価格の高騰は近年注目を浴びている大きな議題であり、バイデン大統領が原油価格の抑制を約束したニュースも今テーマに対する関心を深めた。